

一  
【解答】

問一 (1) 懸念 (2) 破棄 (3) 欠陥 (4) 潮流 (5) 柔和  
問二 (6) いんねん (7) ひよく (8) さわ (9) しわざ (10) したう

【講評】

出題された漢字は、読み・書きともに高等学校の教科書で使用されているものです。全体的に書きよりも読みの方がよくできていました。点画を丁寧に書かなかったり字を小さく書いたりして、形がはっきりしない場合は誤りと判定します。解答の際には、点画をはっきり大きく丁寧に書くよう心掛けてください。

二

【解答】

問一 A ⑥ B ⑤ C ② 問二 ④ 問三 ⑤ 問四 ⑤ 問五 ④ 問六 ②  
問七 生きていく 問八 下の講評を参照 問九 ⑤

【講評】

問一の A は、空欄までの文章から判断します。B は、生きるために必要というのがポイント。問二は、問一の A と繋げて考えます。この繋がりによく理解できていて、高い正答率でした。問三は、どちらが上か下か、ということではなく、「違っている」ということ。問四は、戦場の生活のこと。問五では、自分の中の信仰に気づくこととなります。問三～問五の正答率は高くありませんでした。問六は、生死の問題ではなく「祈ること」を考える必要があります。問七は、「生活の上でなくてもよい」ということ。問八は、文字通りの意味を問うているのではなく、文脈の中でこの文によって何を言いたいのかを問うています。戦場でもキリスト者として生きることがポイント。

三

【解答】

問一 A ③ B ⑤ 問二 I ② II ⑥ III ⑦ IV ④ 問三 ④  
問四 (1) ① (2) ③ (3) ① (4) ② 問五 ② 問六 ⑤  
問七 [1] ④ [2] 下の講評を参照 問八 ③ 問九 ①

【講評】

問一は基本単語、問二・問三は基本的な文法を確認する問題です。問二はよくできていましたが、問三は正答率が低く、基本的な文法事項を確実に習得しておくことが望まれます。問四は主語を答えさせて、敬語の使用や文脈から正確に読解出来ているかを確認しました。問五・六は内容読解の問題です。問五は、何を「知らず顔」なのかに着目します。問六は直前の会話文の内容と「かしこう」の関係を考えます。問七の [1] は基本単語の問題で、これを踏まえて [2] を解きます。直前の光源氏の会話の内容が「母ののたまひしこと」と同じだと句宮が言っていることを押さえてください。問八は文章全体の理解度を確認しましたが、あまりできていませんでした。選択肢と本文を丁寧に照らし合わせるが必要で、「露けく」の意味がポイントとなります。問九は基本的な文学史の問題です。

四

【解答】

問一 A ⑥ B ④ C ② D ⑤ 問二 a ③ b ④ c ② 問三 ① 問四 ②・④  
問五 ④ 問六 下の講評を参照

【講評】

問一は前後の文脈を読み取った上で選びますが、A～C の正答率は高くありませんでした。問二は単語の意味を正確に把握していることがポイントとなります。b・c はややできがよくありませんでした。問三はパズル感覚で、文章の条件に合うように一つずつ新聞社の名前を埋めていきましょう。問四は全体の論旨を問う問題で、よくできていました。問五は文脈に惑わされず熟語の意味を正しく理解していることが重要です。問六は、「内輪向け」という言葉の意味を正確に理解できているかが大事となります。この場合は、新聞社内の内輪において、書評欄と他の面の関係を述べていることがわかれば、答えられます。「どういうことか」という問いに対しては、「～こと」と答えましょう。